

## 日本のアドラー心理学

中島弘徳・鎌田穰・岸見一郎・野田俊作

### 要旨

#### キーワード：

国際学会ニュースレターの 1985 年号に、ノーマン・シルバーマン博士が「いかなる名前で呼ぼうとも / バラの香りはかわらぬが / タマネギと呼ばば混乱が / おきないはずはないだろう」と書いておられます。日本には、バラという名前でタマネギを売る商人がいます。私達は、そのような人々と、商人たちのトリックを美しく協力しながら勇敢にあばいた人たちのお話をしようと思います。

アドラー心理学は 1983 年に日本に入ってきました。2 年後、日本アドラー心理学会が設立されました。そのすぐ後、大阪のアドラーギルドと東京のヒューマン・ギルドという 2 つの教育施設がアドラー心理学を教える場所として創立されました。しかし、大阪と東京のアドラー心理学運動は、その出発時点からすでに質的に違っていました。第一に、大阪では講師たちは古典的なアドラー心理学理論を尊重し、折衷主義を避けたが、東京では、アドラー心理学に加えて、精神分析からトランスパーソナル心理学に及ぶ広い範囲の理論が教えられました。

第二に、大阪では非専門家による地域の学習グループが奨励されましたが、東京ではヒューマン・ギルドがアドラー心理学の供給を独占しようとしていました。実際、大阪地域では 30 近い数の地域のグループがありますが、東京地域では 10 個所以下です。さらに、東京地域の 10 のグループのうち 5 つは、東京のヒューマン・ギルドではなく、大阪のアドラーギルドに影響されて作られたものです。

第三に、大阪では、講師は生徒に、ただ心理学についておしゃべりしているのではなく、アドラーの思想を生きるように勇気づけています。生徒たちはコースの後は地域の学習グループに参加し他のメンバーと体験を交換するように勇気づけられます。東京ではコースの後にはフォローアップの機会はありません。その結果、東京地域では知識がしばしば実践をとまわずに教えられています。

これらの違いはヒューマン・ギルドの治療者である坂本州子氏がシカゴから帰国するまでは明らかではありませんでした。

1989 年から 1992 年まで彼女は渡米してシカゴ・アドラー学校で学びました。日本に帰ってから彼女はヒューマン・ギルドでアドラー心理学を教えはじめました。彼女の講義に出たある人たちは、大阪で教えられているのとは全く違ったことを彼女が教えるので、とても混乱してしまいました。

しかし坂本氏は日本の指導的なアドレリアンたちと話をすることも、会うことさえも、拒否しました。彼女は日本アドラー心理学会の総会で発表したこともありません。彼女は学会の機関誌

に投稿したこともありません。彼女は、それにもかかわらず、アドラー心理学にはじめて出会う人たちを相手に多くの講義をしていました。

日本アドラー心理学会の理事会は彼女のアドラー心理学解釈に関心を持ち、年次総会で講演をしてくれるよう彼女を招待しました。1994年10月、日本アドラー心理学会総会において、「欧米のアドラー心理学と日本のアドラー心理学」という題名のシンポジウムがありました。坂本氏はシンポジストでした。しかし彼女は会合の直前にキャンセルし、われわれは彼女の講演を聞くチャンスを逃してしまいました。同じ総会で大阪の親教育グループのリーダーである高橋さと子氏が東京での親教育グループの運営法を批判しました。東京地域のある人たちが彼女の意見に関心を持ち、彼女を東京地域へ招待して大阪風の親教育グループを体験することにしました。

彼らは彼女の民主的なグループ運営に深く感動しました。坂本氏から学んで勇気をくじかれていた人たちは、子どもとうまくいかないのは、自分たちの勉強が足りないからではなく、間違ったことを教えられていたためであることに気がつきました。何人かの参加者は機関誌に体験を投稿しました。ある母親はこのように書いています。「私が坂本氏からアドラー心理学を学んでいたときは、知識を子どもを支配するために使っていました。彼らはとても反抗的で復讐的になりました。今は、彼らがどんなに深く勇気をくじかれたか理解できますし、彼らにほんとうにすまなかつたと思います。高橋さんから学んで、私はアドラー心理学を生きるということに気がついたので。彼らは大阪風のグループを彼らの地域に作りお互いに知識と経験を交換しました。これを知って、ヒューマン・ギルドの経営者である岩井俊憲氏はひどく怒って、高橋氏を大阪から招いた人を激しく非難しました。

これが東京と大阪の対立が明るみに出た最初のできごとです。

1996年、日本アドラー心理学会の初代会長であった野田俊作氏が会長を辞任しました。理事会で、岩井氏と治療者である坂本氏とが、岩井氏と一緒に働いていた後藤素規氏を新会長に推薦し、理事会は後藤氏を新会長に選出しました。彼は日本アドラー心理学会が守ってきた3つの基本路線を自分も守ると言いました。それは、1) アドラー心理学を日常生活で実践することの重視、2) 非専門家による地域活動の重視、3) アドラー心理学の基礎理論の尊重、の3項目です。

しかし、総会の後、学会誌の巻頭書で、彼はこれら3つすべてを否定しました。第一点については、「私はアドラー心理学を私生活で実践したくない。私はそれを治療者として使うだけだ」と言いました。第二点については、「私は専門家の小グループでの私の活動にだけ関心がある。非専門家の地域活動には興味がない」と言いました。第三点については、精神分析のアイデアをアドラー心理学に混ぜ込もうとしました。

人々はとても驚いて、理事会に後藤氏を大阪地域の地方会に呼んで話し合いたいと頼みました。1997年2月、後藤氏は地方会で機関誌と同じ調子で講演しました。彼は「私はアドラー心理学を1984年に野田氏から学びました。彼は講義のなかで日常生活での実践は重視していませんでした。しばらくして彼は意見を変えて、すべてのアドレリアンはアドラー心理学を個人生活で実践すべきだと言うようになりました。はっきり言って、私は彼には賛成できません」と言って実践の重要性を否定しました。彼は「私は精神分析の考え方とアドラー心理学の考え方が違っていると信じることはできません。双方ともに人間を理解しようとする意図にもとづいています。ですから、目的は共通なのです。精神分析とアドラー心理学の方法は違っているかもしれないけれど、同じところ、つまり自我、アドラー心理学の用語を使えばライフスタイル、に到達するのです」と言って、アドラー心理学の非折衷的な理解の重要性を否定しました。

聴衆は驚いてしまって彼としっかりと話し合いました。後藤氏はしかし態度を変えませんでした。地方会の後も人々は機関誌上や地域のグループで討論を続けました。後藤氏の講演の結果、会員たちは学会運営にみずから責任をとらなければならないことに気がつきました。彼らは専

門家と非専門家が一緒に協力して生きたアドラー心理学を学ぶ場所である学会を維持するための運動を展開しました。何人かの会員たちは会長にやめてもらおうと要求しました。しかし、後藤氏の講演を聞かなかった会員たちはどこに問題があるのか理解できませんでした。彼らは後藤氏から直接聞きたいと思い、理事会に機会を設けてくれるよう頼みました。理事会は後藤氏に 1997 年 10 月に東京でおこなわれる総会で講演してくれるよう頼みました。彼は了承しました。

東京総会はなんと感動的だったでしょう。ある会員は「私は今回ほど印象的な総会を体験したことがありません」と総会後の機関誌に書いていますし、他の会員は「私がこれまでに体験したもっともすばらしい総会でした」と書いています。

会合の最初に後藤氏は突然会長を辞任し、家へ帰ってしまわれました。岩井氏は人民裁判を計画したと言って理事会を非難しました。彼と彼の仲間はたいへん感情的になって大きな声で叫びました。しかし、多くの会員は冷静でただ後藤氏の意見を聞いてから決断したかったのだと理性的に説明しました。

総会の後、岩井氏は学会誌に論文を発表しました。彼は日本アドラー心理学会はファシストに乗っ取られており、人々は理性を失っていると主張しました。野田氏が彼の批判に答えました。簡単に言うと、野田氏は総会の前と総会中の議論の過程は完全に民主的であったことを証明したのです。

ヒューマン・ギルドの人々はアドラー心理学に関する多くの本を書いています。それらの本には、ただ子どもや生徒を操作する方法を書いてあるだけです。坂本氏は彼女の著書のなかに次のような例をあげて結末について説明しています。

1 歳の女兒がコーヒーカップに触ろうとしました。母親はあわててカップをとって安全な場所に置きました。しかし子どもはなおカップに触ろうとしました。そのときたまたま母子といっしょにいた坂本氏は子どもの手をとってカップのところへもっていき「触りたいの？ほら、これは熱いよ」と言いました。子どもはカップに触れて泣き出しました。坂本氏はそこで「この体験から子どもはよい教訓を学んだでしょう。熱いものには気をつけようということです。この子は結末から学んだのです」と解説しています。

1997 年の東京総会の後、これがはげしい議論を巻き起こしました。1998 年 8 月、人々は東京地域の地方会で坂本氏と話し合う機会をもちたいと思いました。坂本氏は参加するのを拒否しました。人々はそこでシカゴでのアドラー心理学の最近の進歩を聞きたいと思い、シカゴ・アドラー学校の大学院生である瀬良英子氏を呼びました。彼女はヒューマン・ギルドの本はアドラー心理学にもとづいていないとはっきり指摘しました。彼女は人々に正しい教師から学ぶよう勧めました。

1998 年の総会の前に岩井氏と坂本氏は日本アドラー心理学会を退会し、「現代アドラー心理学研究会」という新しい会を設立しました。われわれは彼らが権威づけのために国際学会の会員権を申請するのではないかと心配しています。実際、ヒューマン・ギルドの人々は外国のアドレリアンに接近しようとしています。彼らはすでにモンテリオール・アドラー学校と提携し、この夏に講師を呼ぼうとしています。日本のアドレリアンの大部分は彼らが間違っていることを知っていますが、彼らの本を読んだだけの人や彼らの講義を聞いただけの人、彼らを信じるかもしれませんが、ほんとうのアドラー心理学を学んだと誤解するかもしれません。子どもを罰的な技法で操作するやり方をアドラー心理学の名前で教える人たちが、思いつくかぎりのあらゆるトリックを使って影響力を増やそうとしています。たとえば、ただ権威づけのためだけに人をシカゴに送り出すとか、日本アドラー心理学会の会長を作るとか、本を出版するとか、新しい会を設立するとか、海外から講師を招聘するとかです。

ヒューマン・ギルドが教えることは子どもが親の期待にそって行動するよう強制したい人たち向けにデザインされていますので、ある人たちはそれを熱狂的に受け入れます。しかし、多くの人々は親子関係がしばしば悪くなってしまうので、勇気をくじかれてしまいます。彼らはアドラー心理学は効果がないのだと誤解してしまいます。われわれはヒューマン・ギルドが教えているのは、子どもを対等の仲間として尊敬し信頼するアドラー心理学ではないのだと、人々に告げていかなければなりません。

日本でなにが起こっているか知っていただき、この危機を乗り越えるために助言をいただくためにこの発表をしました。

## Individual Psychology in Japan

Hironori Nakajima, M.Ed., Samuel Minoru Kamata, Ph.D.,  
Ichiro Kishimi, M.A., and Shunsaku J. Noda, M.D.

In the News Letter of the International Association of Individual Psychology of 1985, Dr. Norman Silverman wrote, "That which we call a rose! By any other name would smell as sweet. But what confusion it would cause / If it were called an onion !"

In Japan, there are merchants who sell onions by the name of a rose. We would like to tell you a story about them and about the people who bravely uncovered the merchants' tricks in beautiful cooperation.

Individual Psychology was introduced into Japan in 1983. Two years later the Japanese Society of Adlerian Psychology was founded. Soon after that, two educational institutes, Adler Guild in Osaka, and Human Guild in Tokyo, were established to teach Individual Psychology. The Adlerian movements in Osaka and in Tokyo were, however, very different in quality from their start.

First, in Osaka, teachers respected the classic theories of Individual Psychology avoiding eclecticism, while, in Tokyo, many theories ranging from Psychoanalysis to Transpersonal Psychology were taught along with Individual Psychology.

Secondly, in Osaka, local study groups by non-professionals were encouraged, while, in Tokyo, Human Guild tried to monopolize the supply of Individual Psychology. Actually, in the Osaka area we can find almost 30 active local groups, while in the Tokyo area there are less than 10. Furthermore, five of the 10 groups in the Tokyo area were established under the influence of Adler Guild in Osaka, not by Human Guild in Tokyo.

Thirdly, in Osaka, teachers encourage students not just to talk about psychology, but to live Adler's philosophy. Students are encouraged to join local groups after taking courses to exchange their experiences with other members. In Tokyo, after a course, no follow-up sessions were held. As a consequence, in the Tokyo area, knowledge was often taught without any practice. These differences were not explicit until Ms. Sakamoto, a therapist with Human Guild, returned from Chicago.

From 1989 to 1992 she studied at the Adler School of Professional Psychology of Chicago. On returning to Japan, she started teaching Individual Psychology at Human Guild in Tokyo. Some people, who attended her lectures, were quite confused because what she taught was totally differ-

ent from what was taught in Osaka.

Ms. Sakamoto, however, refused to discuss this and even declined to meet with other leading Adlerians in Japan. She has never made a presentation at the congress of the Japanese Society, nor contributed a paper to the journal of the Society. She, nevertheless, has given many lectures and through these lectures many people have come into contact with Individual Psychology for the first time.

The committee of the Japanese Society was interested in her interpretation of Individual Psychology and invited her to give a lecture at the annual congress. She agreed to come. In October 1994, at the national congress of the Japanese Society, we had a symposium about Individual Psychology in the Western World and Japan. Ms. Sakamoto was to be a symposist. She, however, stepped down right before the meeting and we lost the opportunity to hear her speak.

At the same congress, Ms. Takahashi, a parent study group leader in , criticized the management of parent study groups in Tokyo. Some people in the Tokyo area were interested in her opinion and invited her to Tokyo so that they could experience the Osaka method of parent study groups.

Participants in Ms. Takahashi's group were deeply impressed with her democratic management of the group. People who had been discouraged after studying under Ms. Sakamoto., realized that the reason why their relationships with their children were not going well was not because they had not studied hard enough, but because they had been taught mistaken concepts. Some people who had participated in both groups contributed their experiences in papers in the journal.

One mother wrote, "When I learnt Individual Psychology from Ms. Sakamoto, I used the knowledge to manipulate my boys. They became very rebellious and revengeful. Now, I can understand how deeply I discouraged them, and I regret this. When I studied under Ms. Takahashi, I understood for the first time how to live Individual Psychology. These participants established some Osaka-style local groups in their areas and shared their knowledge and experiences with other people.

On hearing about this, Mr. Iwai, the head of Human Guild, became angry and bitterly blamed the person who invited Ms. Takahashi from Osaka.

This was the first incident by which the opposition between Osaka and Tokyo came to light in 1996, Dr. Noda, the first president of the Japanese Society, resigned from his position. At the committee meeting to decide upon the new president, Mr. Iwai nominated Dr. Goto, a psychiatrist who worked with Mr. Iwai, as a candidate. The committee elected Dr. Goto as the new president. At that time he stated that he intended to maintain the three basic policies of the Japanese Society. That is, to recognize (1) the importance of the practice of Individual Psychology in daily life, (2) the importance of local movements by non-professional people, and (3) the importance of respect for the basic theories of Individual Psychology.

However, after the congress, in Dr. Goto's first paper as president in the journal of the society, he denied all three of these policies. Regarding the first, he said, "I do not want to practice Individual Psychology in my private life. I just use it as a therapist." About the second point, he said, "I am interested only in my activity in small group seminars for professionals. I do not care about local movements by non-professional persons." About the third point, he tried to merge Psychoanalysis ideas into Individual Psychology.

Many members of the Japanese Society were shocked at Dr. Goto's statements and asked the

committee to invite Dr. Goto to the local congress in the Osaka area so that these issues could be discussed. In February 1997, Dr. Goto gave a lecture at this congress in the same tone as his paper in the journal. He denied the importance of practice, saying, "I first studied Individual Psychology from Dr. Noda in 1984. In his lectures, he did not emphasize the importance of practice in daily life. Over the years, he changed his opinion saying that every Adlerian should practice Individual Psychology in his or her life. Frankly speaking, I cannot agree with him." He denied the importance of non-eclectic understanding of Individual Psychology, saying, "I cannot believe that the philosophy of Psychoanalysis and the philosophy of Individual Psychology are different from each other. Both are based on the intention to understand people. Therefore, they have a common goal. Although the methods of Psychoanalysis and Individual Psychology may be different from each other, they will reach the same point, the self, or the 'style of life' in an Adlerian terms."

His audience was quite astonished by his remarks, and many had intensive discussions with him. Dr. Goto, however, did not change his attitude. After the congress people continued to discuss this in the journal and at local groups. As a consequence of Dr. Goto's lecture, many members realized that they should take responsibility for the management of the society. They developed a movement to maintain a society in which both professionals and non-professionals could cooperate with each other to learn and live Individual Psychology. Some members insisted that the president should resign.

However, other members, who had not listened to Dr. Goto's lecture in Osaka, were not able to understand what the problem was. They wanted to hear directly from Dr. Goto and asked the committee to arrange an opportunity to hear him speak. The committee asked Dr. Goto to give a lecture at the national congress in Tokyo in October 1997. He agreed to do this. How impressive the Tokyo congress was! After the congress a member wrote in the journal, "I have never experienced such an impressive congress!" Another wrote, "This was the most splendid congress I have ever experienced!"

At the beginning of the meeting, Dr. Goto abruptly resigned from his position of president and left the hall. Mr. Iwai blamed the committee for planning a "people's court." He and his colleagues were so emotional that they shouted in loud voices. Many members, however, were cool-headed and explained rationally that all they wanted to do was listen to Dr. Goto's opinion so that they could make their own decisions.

After the congress, Mr. Iwai published a paper in the journal of the Society.

He insisted that the Japanese Society was occupied by fascists and people who had lost their reason.

Dr. Noda answered his criticism. In short, Dr. Noda proved that the process of discussion before and during the congress was perfectly democratic.

People affiliated with Human Guild have published many books on Individual Psychology in Japanese. These books describe methods on how to manipulate children and students.

Ms. Sakamoto gave the following example in her book to explain consequences: A one year old girl was about to touch a hot coffee cup. Her mother quickly took the cup and put it in a safe place. The girl, however, persisted to touch the cup. Ms. Sakamoto who happened to be with the mother and child at the time took the child's hand and guiding it to the cup, said, "Do you want to touch it? Look, it is very hot!" Touching the cup, the girl burst into tears. Ms. Sakamoto then commented, "From this experience a good lesson was able to be learnt; to be

careful of hot things . The child learnt from the consequences."

This episode stimulated severe controversies after the Tokyo congress in 1997 .

In August 1998, people planned an opportunity to discuss this issue with Ms . Sakamoto at a local congress in the Tokyo area . She rejected the invitation . People then wanted to hear about the latest developments in Individual Psychology in Chicago, and invited Ms . Hideko Sera, a graduate student of the Adler School in Chicago to participate in a symposium at that local congress . Ms . Sera clearly pointed out that the books published through Human Guild were not based upon Individual Psychology . She advised people to study from teachers who had an genuine understanding of Individual Psychology .

Before the national congress of 1998, Mr . Iwai and Ms . Sakamoto withdrew from the Japanese Society and established a new party named, ♪ The Research Group of Modern Adlerian Psychology. † We are afraid that they will apply for membership to the International Association of Individual Psychology to make themselves authorized .

Actually, Human Guild has approached Adlerians in countries other than Japan .

They have made an agreement with the Adler Graduate School of Psychology in Montreal, and will invite some lecturers to visit Japan this summer . Most Japanese Adlerians are aware of the mistaken approach of Human Guild . However, people who only read their books or attend only their lectures will no doubt believe them, and thus, they may believe that they have learnt is the "real" Individual Psychology .

People, who teach methods on how to manipulate children with punitive techniques under the name of Individual Psychology, try to gain influence by all tricks imaginable; sending a member to Chicago just to be authorized, setting up the president of the Japanese Society, publishing books, establishing a new society, and inviting lecturers from overseas countries .

As the teachings of Human Guild are designed for those who want to push their children to behave according to their expectations, some people accept them with enthusiasm . However, many people are discouraged, because the parent-child relationship often gets worse . They may then believe that Individual Psychology is ineffective . We feel that we need to inform people that what Human Guild teaches is not Individual Psychology which teaches us to respect and to trust children as equal partners .

We are giving this paper to let you know what has been occurring in Japan and to receive your suggestions on how we may overcome this crisis .

## 更新履歴

2012年9月1日 アドレリアン掲載号より転載